

氏名（本籍）	おおとうわ たけし 大東和武司（広島県）
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	乙第21号
学位授与年月日	2024年3月22日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第36条第2項及び広島市立大学学位規程第3条第3項の規定による
学位論文題目	地域企業の国際展開についての一試論 —ファミリー系企業における社会情緒資産の視座を中心として—
論文審査委員	主査 教授 李 在鎔 委員 教授 金谷 信子 委員 教授 高橋 広雅 委員 教授 高井 透（日本大学）

論文内容の要旨

同研究は、社会情緒資産理論の視座から、広島・山口県を本拠とする4つの地域企業に対する深度ある実地調査及びヒアリング調査分析に基づき、その成長過程を網羅的に捉え、地域企業の存続要因を明らかにするものである。また、同族地域企業の存続における国際展開の位置づけが試みられている。

同研究は、地域企業の属性が同族企業である場合が多い点に着目し、同族企業の存続論理の一つである、社会情緒資産の視点を地域企業と地域社会との関係性に拡張し、地域企業の存続、成長過程を論究している。

提出論文は7章で構成されている。まず第1章では、同研究に至った経緯や研究の背景、目的について述べている。第2章では先行研究を踏まえ、主要な概念について説明している。先ず、地域と地域企業についてスイス機械産業集積の事例を取り上げ、インプットにおける地域性とアウトプットでの国際性が共存しうることを示している。

第3章では、アーキスという地域企業の事例を取り上げる。著者は同社の地域企業の起業とその進化プロセスへの考察を通じて地域企業における存続要因について検討している。地域企業における存続要因の基盤として、創業者の「おもい」すなわち、地域社会への愛着（想い）、地域社会に関する知識（思い）、地域社会とのつながりの活用（念い）の具現化等における一種の進化プロセスがあるとしている。

第4章では、地域企業の内部資源の拡張的活用について述べている。広島熊野筆という書道筆の家内手工業から生業を興し、現在は高級化粧筆メーカーで存在感を示している白鳳堂を例証に、伝統産業に携わる地域企業が伝統的技術を活かし、製品市場、地域市場の開拓を図り、成長を遂げようことを提示している。ここで著者は、地域企業の成長の局面において、著者が「伝統の翻訳」と称する伝統産業に内在する知的資本の現代的な価値の探索とその拡張的な応用のプロセスの重要性を示唆している。

第5章では、地域企業の外部環境の探索とその存続基盤である地域社会との相互補完関係について考察している。同章では、藍染などの備後緋の伝統的製法を発展させ、現在は高級デニム生地メーカーとして定評を築いている広島福山のカイハラ産業の事例を取り上げる。著者は同社が外部環境における成長機会と伝統的技法等の内部資源との間で、「対話」という濃密な情報共有と綿密なフィードバックを通し、地域を本拠としつつ世界市場で一定の地位を確立してきた発展経路について丹念に分析している。

第6章では、主に海運・造船事業を展開しているツネイシグループの事例を取り上げ、地域企業の国際展開と社会情緒資産との関わりについて検討している。著者は、同社が日系造船企業の中でも海外直接投資に成功し、受け入れ地域に深く根付いている数少ない成功事例であることから、社会情緒資産の視座が創業の地に限定されず、一部進出先の地域社会にも拡張しうると示唆している。但し、同時に同社のような同族地域企業による海外直接投資は組織再編を伴うため、構造的に同族支配の基盤に影響しうることから、あくまでも同族支配が堅持できる範囲及び条件下で限定的、あるいは付随的に行われるものとしている。

第7章では、同研究の結論と含意及び今後の課題が述べられている。

論文審査の結果の要旨

本学位申請論文に対する本審査は、2024年2月13日(火)2限(333会議室)に2部構成で行われた。第1部は公聴会形式で行われた。まず申請者より研究目的、同研究に関する先行研究、研究課題、調査方法、結果と結論、研究の含意について30分間説明がなされた。説明終了後、40分間質疑応答が行われた。審査委員より社会情緒資産理論と著者が独自に提示している分析概念の「想い」「ルーチンのプラットフォーム」との関連性や地域企業と地域社会とのつながりから生じる負の側面、地域性と国際性の両立可能性に関する質問やコメントが寄せられた。これらの質問に対して、申請者から適切かつ丁寧に返答がなされた。

引き続き、第2部では申請者や出席者の退室後、提出論文及び第1部での申請者による概要説明及び質疑応答について審査委員が協議し、審査を行った。その結果、以下の点でこの研究の学術的貢献が認められると評価した。

第一に、同研究は申請者が長年にわたり取り組んできた当該分野における研究蓄積を土台としており、4社の地域企業の発展過程を網羅的に捉える経営史的考察と地域企業の戦略論を結び付けて検討しているという点で興味深い研究である。

第二に、社会情緒資産説では主に同族企業を対象にし、同族経営者と会社との一体化、企業の永続性志向(同族繁栄のミッション)、同族内での利他主義(家族結束)により非財務的効用をも追究しやすいというところに注目するが、同研究ではこのような同族と企業との関係性のロジックが、(同族)地域企業と地域社会との関係性にまで拡張して適用しうるという可能性を示している点で、その学術的貢献が認められる。

第三に、地域企業の発展理論と企業国際化のロジックを関連付けて説明している点でより現実味のある理論構築に寄与できるものである。

一方で、本委員会より以下の点において提言がなされた。

第一に、社会情緒資産の定義の文脈の中でアイデンティティという概念が如何に捉えられているかはやや曖昧であり、これらについて補足説明が望まれる。

第二に、第3章におけるアーキスの事例分析から理論展開への流れにおいて分かりにくい箇所があるが、これらについては他の章に整合するような形に修正することでより精緻な論述が期待できる。

ただし、以上の点は同論文の学術的価値を大きく損ねるものではなく、また提出期限まで十分修正ができることから、審査委員会は全員一致で大東和武司氏に博士（学術）の学位を授与することが適切であると判断した。

（参考：本文 228 頁、参考文献 355 点）